



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE

HYOUGEMONO 11

へうげもの



YOSHIHIRO YAMADA **Hyouge Mono**

Orube Furuta Toyotomino Hideyoshi Satarou Ueda Nene Ieyasu Tokugawa

11

山田芳裕
YOSHIHIRO YAMADA

講談社

MORRIN
KC
1011
へうげもの
Hyouge Mono 11



9784063729191



1929979005337

雑誌 42671-19

ISBN978-4-06-372919-1

C9979 ¥533E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体533円(税別)

Furuta Oribe, krijgsheer tijdens de Sengoku-periode, bezeten van de theeceremonie en gedreven door hebzucht. Gewapend met een groots wereldbeeld dankzij de geniale Oda Nobunaga en met spiritueel inzicht dankzij de Meester van de Theeceremonie Sen no Rikyu, gaat hij af op de titel van Hyouge Mono, "De Nar". Een geheime boottocht brengt Oribe naar Korea, waar hij een nieuwe oventechniek aantreft. Maar net als hij denkt het summum van theeceremonie en keramiek te zullen bereiken, worden zowel zijn theekoppen als zijn ambities plots door een zware aardbeving verbrijzeld. Leven of dood, macht of kunst – dat is de brandende vraag!!

茶の湯と物欲に魂を奪われた戦国武將・吉田勘部。

天才・信長から壮大な世界性を。

茶聖・千利休から深遠な精神性を学び、

「へうげもの」への道をひた走る。

密航の果て、朝鮮で新茶術と遭遇した勘部。

茶の湯とやきものの頂点は目前と思いが、

予期せぬ大地震により茶器も野望も灰塵と化す。

生か死か、武か藝か、それがますます大問題だ!!



腰痛がひどくなり通院しておりやす
伺ったところ、

腰には正座の姿勢が良いそうです
となると茶の湯を習い事にするのが
良いのやもしれやせん

取材時に正座をしていて足が痺れ、
危うく高価な器を割りそうになった
私にやあ向いてなさそうですが……

山田芳裕



Orube Furuta



Toyotomino



Satarou Ueda



Nene Ieyasu



Tokugawa



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE

HYOUGEMONO 11

へうげモノ



YOSHIHIRO YAMADA Hyouge Mono

Orube Furuta Togeitsuki Hideoyoshi Satsuma Ueda Nene Igayasu Tokugawa

11

山田芳裕

講談社

MORNING KC 1011

へうげモノ Hyouge Mono 11



雑誌 42671-19

ISBN978-4-06-372919-1

C9979 ¥533E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体533円(税別)

Furuta Oribe, krijgsheer tijdens de Sengoku-periode, bezeten van de theeceremonie en gedreven door hebzucht. Gewapend met een groots wereldbeeld dankzij de geniale Oda Nobunaga en met spiritueel inzicht dankzij de Meester van de Theeceremonie Sen no Rikyu, gaat hij af op de titel van Hyouge Mono, "De Nar". Een geheime boottocht brengt Oribe naar Korea, waar hij een nieuwe oventechniek aantreft. Maar net als hij denkt het summum van theeceremonie en keramiek te zullen bereiken, worden zowel zijn theekoppen als zijn ambities plots door een zware aardbeving verbrijzeld. Loven of dood, macht of kunst – dat is de brandende vraag!!

茶の湯と物欲に魂を奪われた戦国武将・古田織部。
天才・信長から壮大な世界性を。
茶聖・千利休から深遠な精神性を学び、
「へうげもの」への道をひた走る。
密航の果て、朝鮮で新嘉術と遭遇した織部。
茶の湯とやきものの頂点は目前と思いが、
予期せぬ大地震により茶器も野望も灰燼と化す。
生か死か、武か藝か、それがますます大問題だ!!

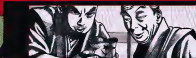


腰高がひどくなり通院しておりやす
伺ったところ、
腰には正座の姿勢が良いそうです
となると茶の湯を習い事にするのが
良いのかもしれない
取材時に正座をしていて足が痺れ、
危うく高価な器を割りそうになった
私にやあ向いてなさそうですが……

山田芳裕



誕生!? 古田「乙」織部。日本人は「乙」だね。



へうげモノ 11

モーニングKC919 372919-1



HYOUGEMONO SAKI 2015
YOSHIO YAMADA
KODANSHA

1919

HYOUGE MONO SINCE 2005
MORNING KCMORNING
KC
1919

Oribe Furuta
Toyotomino Hideyoshi
Satarou Ueda
Nene
Ieyasu Tokugawa

へうげモノ

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

KODANSHA



Hyouge Mono

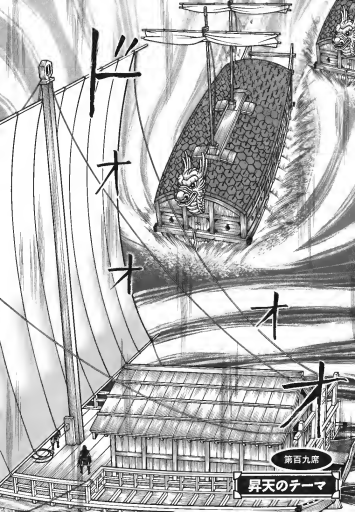
11



山田芳裕
YOSHIHIRO YAMADA

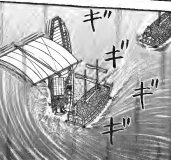
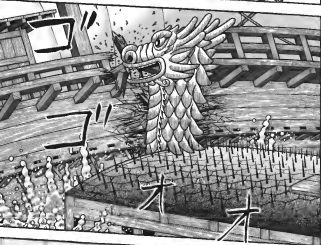
Furuta Oribe, krijgsheer tijdens de Sengoku-periode, bezeten van de theeceremonie en gedreven door hebzucht. Gewapend met een groots wereldbeeld dankzij de geniale Oda Nobunaga en met spiritueel inzicht dankzij de Meester van de Theeceremonie Sen no Rikyu, gaat hij af op de titel van *Hyouge Mono*, "De Nar". Een geheime boottocht brengt Oribe naar Korea, waar hij een nieuwe oventechniek aantreft. Maar net als hij denkt het summum van theeceremonie en keramiek te zullen bereiken, worden zowel zijn theekoppen als zijn ambities plots door een zware aardbeving verbrijzeld. Leven of dood, macht of kunst – dat is de brandende vraag!!

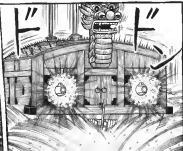


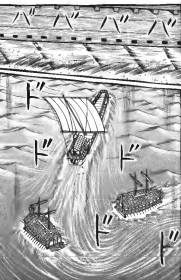
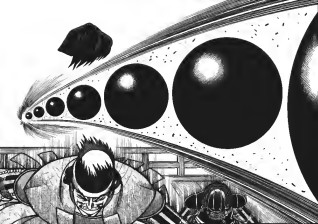


第百九席

昇天のテーマ







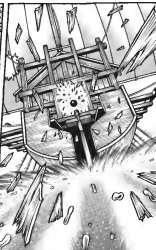


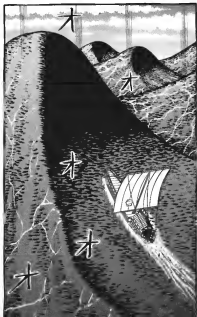


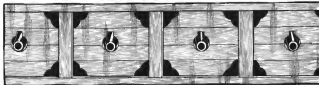


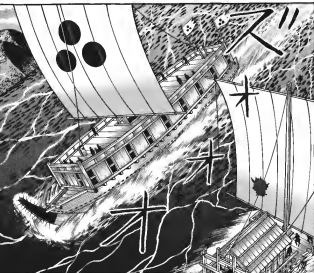




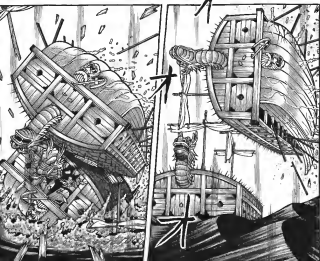


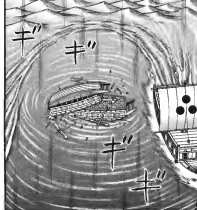




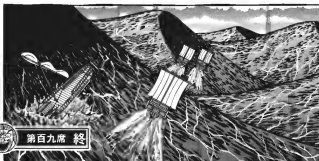




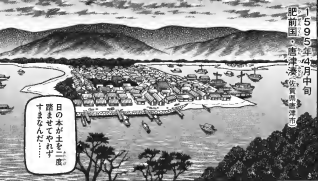








1595年4月中旬
肥前国・唐津藩・佐賀県唐津市



日本の本が土を二度
踏ませてやれず
すまんんだ……



伏見におる妻子に
この錦を送してくれ

はっ



殿っ

波多^{ハタ}殿の
客襲が……!!!



又^{また}兵衛^{べいゑ}を莊い
法基^{ほふき}屋^やに焼てた
その方が功……

決して
無駄^{ムダ}にはせぬぞ

















織部正様っ

あ……
いや……



纏付けする
件でもあるまい



この辺りの土は
あの器を造るのに
向いてそうよ

私も色々
探してみるわ
オリへさん

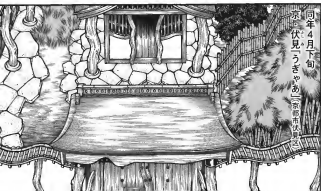


しばしお別れ
だ おえい

共にあのゆがみ
茶碗を盛り上げ
世に示そうぞ

景徳鎮けいとくちんを超えろ
器の下剋上を









あなたは教人で
あられますれば



何しろ得路が
命懸けでう

心地良い想い
など 露程も
できなんだわ！



公務で危ううなるは
覚悟しておりますが

数奇で危ううなる
は もうお控え
下さりませ……

私の方が心配で
もたませぬゆえ



途中女子と

彼の地の陶工と
まぐおうて
しもうた……!!



すまぬ
おせん!

心が痛む故
申しておく
!!



それも覚悟して
おります

危険な地へ赴く
殺人ほど 左様な
事はこらえられぬ
ものと……



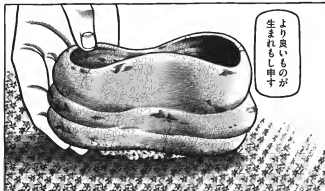
この上なき回春に
身悶えてしもうた
のだ……

久方ぶりに
一切の気を
やってしもうた
のだ!!











ま……
まさか……

筆頭茶頭を
代わりし程間
とは……

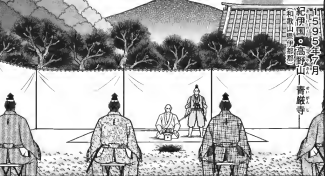


欲しい方を
選んで下され
有楽斎殿



通常の井戸茶碗も
用意してござる







理不尽な
仕打ちを
受けようぞ!!

第百十一席

聖☆おかあさん





左眼だけ開いて
歯を食いしばって
はるわ……

何にせよ 太陽様は
御胎を召して過難に
なられてはる……

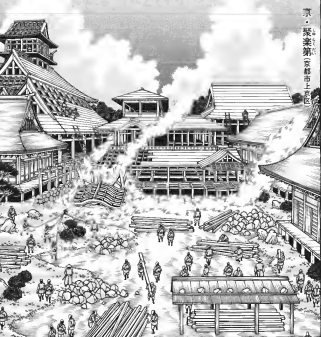
秀次様の首を
よう見てみい
……



あれは不吉の
相や……

京にも厄が
降りかからねば
ええがのう……







石田様の中さ
れた通り……

それと秀次の処刑は
やり過ぎかと……

拾様が大きう
なられるまでは
関白職の中継ぎを
任せていた方が……



いや、新たな時代
の夜明けと感ずる
べきぞ

豊臣が力は
伏見に集中し
より盤石なもの
なるのだから

大寺
大寺



もうその事は
悪い

拾様との
世継ぎ争いを
早めに封じるも
大切な事……

殿下とて苦渋の
決断をなされた
のだ



その決断を
……

決して殿下
にはすまい



サッ
サッ







よう戻った

お長……

安心するは早い
ぞ お玉……

お長はいまだ
沙汰を待つ身
……



おのれ
石田め……

何とかあやつだけ
でも罪れぬものか
……

なりま
せぬ!!



秀次様の新臣に
嫁いとお前まで
処刑されるのでは
と……

母は一睡も
できません
でした……







ふがあ!!!



ちえい!!!



くああ!!!



織部正雄が
面会願いたい
と……



と……殿っ



間抜け面とは言い
過ぎにござろう



帰せ!!

かような時に
間抜け面なぞ
見たくもないわ!!



この歴敷も
伏見に移す
そうな

出費が嵩むのう
忠興殿



その方が利休居士
の介錯役を引き
受けたは……

淀川で見送りし件
の処刑を、感涙し
にするためでも
あったと……



蒲生殿の死に際で
耳にしたぞ……



蒲生殿はその事に
酒飲を下げ、息を
引き取ったが……

それがしには
有難迷惑よ……

許しても作った
気でおるのか……
？







それがしとの繋がりは
近臣に據いだお長のみ
!!

秀次に金子を工面
してもろうていた
のでは?



関白に借りて
何が悪い!!

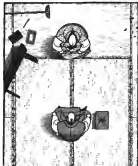
唐入りが
ためぞ!!

ひいては
豊臣がため
であろう!!

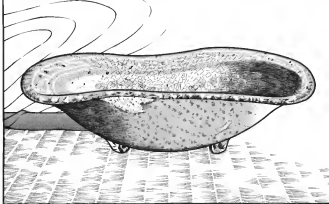


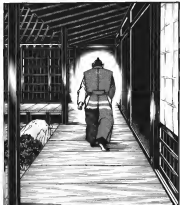
それだけなら
良いが……

数奇に世や十分
まで、借りて
おったなら……











1595年8月

伏見・徳川家康屋敷

(京都市伏見区)

細川忠興が家老
松井康之に
ごさいます

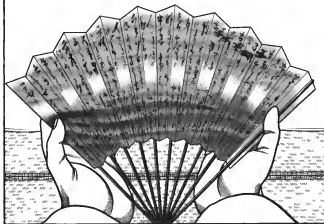




第一百二十二卷

(Dawning Of EDO) New Era







※のもの騒ぎのこと











それにしても
あの素垣とやらの
眼は……

心まで凍てつく
気がしたわ……



我が野みを
世に広めるためには
筆頭素垣が力のみ
では足らぬのだ

これから徳川様には
費用や宣伝で
何かと世話になる
ゆえのう



殿は近頃
何かにつけて
ニヤついており
ますよ



我が殿をあれだけ
笑わせた織田三郎
が……ですか？



されど眞は
……



それは何より
……

やはり忠義殿が如き
男には、情の移る類
の笑いが良い……





唐津では今
あのような様子を大量
に造っておる……

いずれ美濃でも通り
全国へ行き渡らせる
日軍だ……

売れねば
金財産を失う
ことになるが



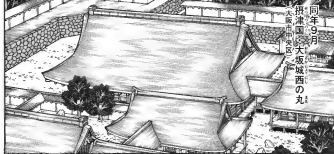
ささやかながら
良き風評に加担
させて頂きます



今の世の民は
科擧士士の
難しきわびが
わかる程に賢い

必ずや
我が好みに
吾敵を打つてくれ
よう

同年9月
摂津国 大坂城西の丸
大阪府中央区









秀次が一件は
どうやら落着
しそうだ



豊臣家への影響
に聞こえますが



そこで耳に
したのが……

秀次より金子を
借りていた者が

名だたる大名
のみならず
数多くおったと
いうことよ



側近や侍女ら
三十九名らが処刑
されたが……

伊達や最上……細川は
私の執り成しで
何とか難を逃れた
ようだ









賢者は
爪を隠してでも
己を前へ出さんと
するもの……

出さんとすれば
また争いが起こる
……

この流れを
止めねば
ならぬ



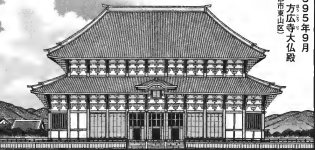
民に余計な
恩恵は不要……

要るのは
知恵……

清廉潔白なる心
のみと 申される
のですな……



1595年9月
京・方広寺大仏殿
(京都市東山区)

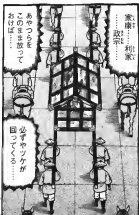




第百十三席

ハートブレイク・伏見





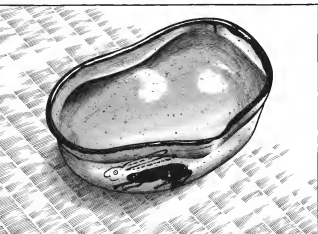














朝鮮より連れ帰った
陶工が良い土を
見つけたらしく……

新しき豊穡にて
続々と我が好みの
物を造ってこざる



三



いがつべえ

これ
いがつべえ

見るだけで
虫の如くみるみる
笑い死んでくのが
わがつべえお



この……
佐竹義堂……

約二十五ながら
我が数寄の横つこを
わかつておる……



し……
失礼をは

う……うい
国の言葉が



ぜ……
是非に!!

是非にこれを
お望み願ひとう
存じまする!!



助けてもらうた
札がそれだけでは
申し訳ござらぬ

我が下屋敷に
お廻きしたいが
如何にござらうや
………







真の實力は
私が世に放たんとす
數奇を以て
支えとうござる

今の私は
その氣概に
満ちており申す



その細口の
釜に……

大振りの柄杓を
合わせるような
間抜けが
よう申すわ



細口の釜には
小振りの柄杓を
使うが定石よ



細口には
小振りと……

ほう……



左様な事で
裏の実力など
支えられぬわ



堅古しきを嫌う
貴殿の言葉とも
思えぬ……

だから
茶の湯上手とは
言われぬので
ござる

何なら
些少の札にて
茶の湯の基礎から
教えてやるぞ



その際その隙を
面白うするには
どこかで定石を
外さねば……

大男の利休^{きょ}士^しが
小振りの道具を
用いていたのも
同じ事……



細口に小振りでは
いかにも「合^あわせた」
と申さんばかり……

鼻につくし
面白うもなし
……

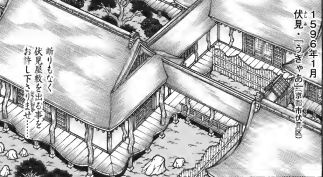






1596年1月

伏見・「うきやあ」京都市伏見区



断りもなく
伏見屋敷を出る事を
お許し下さりませ……

夜の御相手が
至らぬばかりに……



色々とおあなたに執懐を
懐いてきたのではと
反省しております……

私が側に居ては
あなただの剣意を損なうと
思うに至り……



いざなうは
大坂の政宅に留まり
先政所様の御世話を
させて頂く所存にて……



くれぐれも
御身体にお気を
つけて

せん









同年2月

伏見・福島正則屋敷

(京都市伏見区)





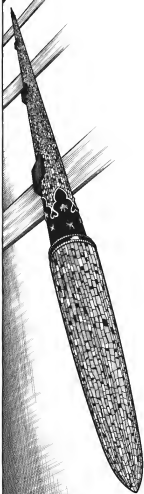


















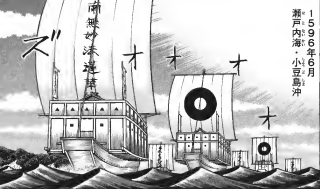








1596年6月
瀬戸内海・小豆島沖





第四百十五席

Let it be



以上の罪を以て
加藤主計卿を
伏見屋敷にて
監禁と処す!



一つ
明使の返書に
勝手に「豊臣朝臣」と
署名せし件!

殿下に
会わせてよ

石田
殿

その罪状は
全て小西の
報告ね！

俺は殿下が最初に
中された仰せを
守り通しただけよ！

ならぬ

「殿に勝って
己が領地とせよ」
!!

領地にするため
独自に明と交渉
してただけよ!!

直に殿下と
話せばわかって
くれるね!!

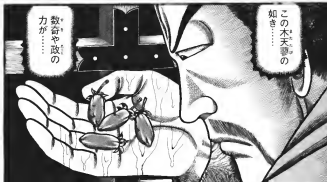
明との状況は
刻々と変わって
おるのだ

出すぎた
真似をしたと
己を戒めよ

これじゃあ 命懸けで
戦った諸将も
収まりつかないよ!!

加藤殿！







お食事をお持ち
致しました
北政所様



よう精めて
くれるでお
おせん……



けど、そろそろ
話してくれたって
えーんでしょ？

左介殿と何が
あっただね？

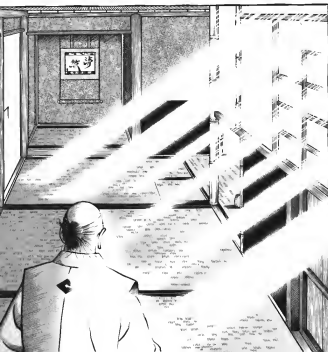
















従来の草庵茶室は
禁欲に過ぎると
常々想うておつての



いや……

ここを訪れた
客人はまだ
数える程とか

如何かな
上田殿？



その程度なら
まだ良いですが

いずれ多くの
客人が知る所と
なれば……

かような隘口
を叩かれかね
ませぬ……



今一度 庵の
軸を見られよ



綱正は数奇を
わかつておらぬ
……と

いまだ草庵茶室は
狭く薄味きものと
されていきます
からな











何や
これは……

雪か……!!



いや
灰や……!!

とでかい流れ星が
出たと想うたら
今度は灰かい!!

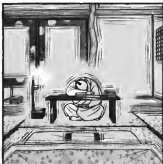


気色悪いの

何ぞ
起こらんと
ええけど……



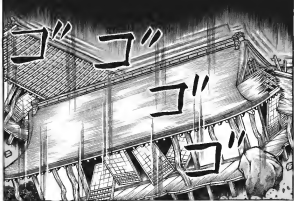
1596年閏7月
伏見・「うぎやめ」(京都市伏見区)





第四百十六席

Mr. BRAND NEW DAY





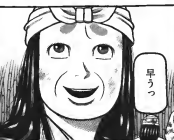


















彼は一夜にして
一切を失うて
しもうた……

翌年月もかけて
築き上げた数奇の
全てを……



これが……

この惨事が
天罰だと
したら……

重過ぎは
せぬか……





また一から
やり直し
しましょう

雨降って
地が固まった分
……

より高く
飛び跳ねられ
まする





さては
おせん

今まで気付か
なかったが……

「ミユキン」が
お主の好み
かえ……うー



「ミユキン」
よの……



この鮮やかな
縹緲の緑が……

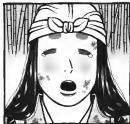
今は地より
吹き出る夢の如く
心地良う見える
……

※好む全画しんしん



中さぬでも
よいよいっ

己が好みを
さらけ出すは
恥ずかしうも
あるゆえのう



さあ
片付ける前に
一俵……

あ……
あなた
外で??



なんや
おらへんのか
……



これだけでも
大した財になる
でん……



掘り出したで
鐵部はん！

勢高屋衛に
十文字初高合は
無事や!!



あつ!!

パキッ



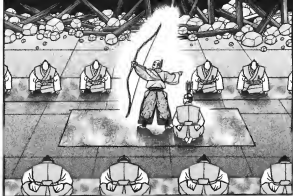
ポッポー

ポッポー

1596年閏7月
京・方広寺大仏殿（京都市東山区）









致し方
なからう

家康や利家にも
囁聞されたのだ



されど……

明との交渉に
害をもたらした
加藤清正を赦免
なされたは……

いさるか
問題かと



おれは
ごめします

第二次が件でも
あの両名の囁聞を
受け
諸大名を赦す結果
となりました

このままでは
國に榮らせること
になります





余は老いた

明とは対等となり
朝鮮に領地を占め
んとする今……

内々の御座な氣遣
に口を出すは
面倒になって
きておる……



よう申した

お前があやつらを
警戒しておるなら
安心ぞ



それでも堂兄
捨の行く末を
想えば……

用心するに
越したことは
ない

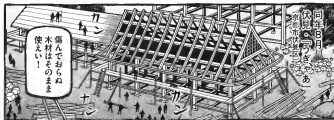
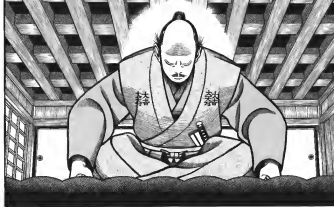


お前を含む五奉行の
屋敷を 新たな
伏見城の内郭に置く

あやつらの
手駒……
しかと捌け



されば それがしの
地獄をさらに……







これよりの
建物は地震も
考慮せねば



費用はかかっても
礎石や石垣は
断しきものに
替えるべきです



さすがは
青年指南役
殿ぞっ



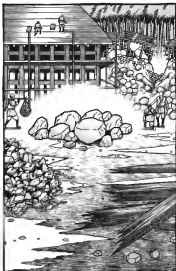
私も そう
想うて 石を
吟味しておる

それなら
加藤清正様の
石垣通りなどを
参考にすべきかと



これっ あまり
機軸を入れるで
ない 作介っ

それより
早う白湯を
持って参れっ





同年9月
大坂城・本丸(大阪府中央区)



この度の地震により、伏見城での鑑見はなくなりましたが……



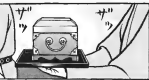
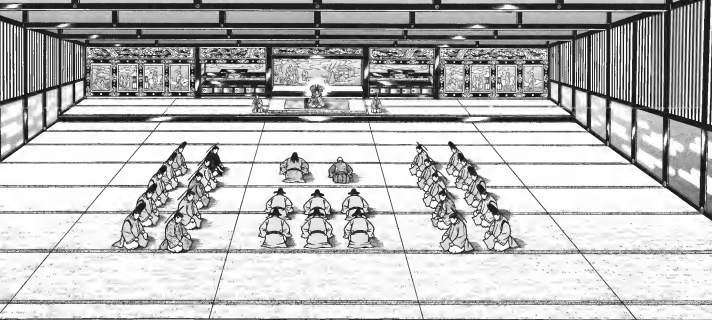
明使節団を代表し、この波難敬

謹んで慶びの意を表したく存じます



ここ大坂城千鳥敷において……

無事、大開殿下に御目にかかることができた……





皇帝よりの話を
申し上げます



度重なる和蘭交渉
ご苦労であった

これで余も明皇帝
と並ぶ 日の本・
朝鮮を束ねる長と
なったのだな



ひとつ！

汝を封じて
日本国王と
なす！



日本国王陛下

皇帝位では
ないのか
……!!











たとえ悪い
ようと……

このことだけ
は隠れぬ……

内々の無に口を
出すが面倒に
なろうと……



されど
殿下

黙れ!!

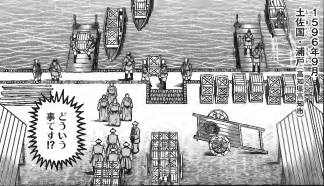


日輪の子たる
豊臣秀吉が

天を仰ぎ見る
場におつては
ならんのだ!!



1596年9月
土佐国・浦戸（高知県高知市）



どうい
う事
です？



日本の本慣例に
従うておるまで
！

その方らは領内
に無断で入って
きたのだから！



我らは處で壊れた
船を直しに寄った
だけなのに……
なぜ積み荷まで
没収されるの
です？



やうかいな事
に
なつた……

リン・フェリベ
を早く直して
出航せねばな……



のちに船員を
辱罵させて頂く
！



第百十八回

金子GO ROUND

同月

伏見、石田三成屋敷

京都市伏見区



イスパニアの
船が土佐に
……!!

今は船員に経緯
などを尋問して
おるよう……

切支丹の動きが
ふたたび活発に
なってきた昨今

殿下の御氣に
障らねばよいが



地震が起こり
明との和睦が破綻
した矢先に……

南蛮との係わり
まで危うなっ
てくるとは……



お教え頂き
かたじけない
石田殿……





明や南堂との仲を
取り持つ
小西殿には
つかろうが……



今一度 石田殿
の肚を確かめて
おきたい……



日の本がために
根気強く働いて
もらわねば



貴殿は明との
縁を 早々に
終わらせ……

南堂との係わりも
続けていきたい
所存なのですな
……



それが最も
愚臣のために
なり申す



それがし 役目柄
殿下亡き後の世も
事じねばならぬ

幼き槍模の
指揮下で
明との戦は
冒険に過ぎる

そして国内の
不満勢力を抑え
込むには……



火薬の元となる
硝石の輸入は
不可欠

よって豊臣が力を
維持するため
南蛮の後ろ盾が
必須にござる

多少の布教には
目をつぶって
でも

同年10月
肥前国・名護屋

(佐賀県唐津市)



心得た

この小西行長
そのつもりで
精を尽くし申す



どういふ事だ
小西よ……

明との和睦か
被嫁とは……





今しばらく

朝がかかると
いうことに
ござる



早く戦を終わらせ
日明貿易を復活
させる……

そのために
我がイスハニアも
協力していたのだ



我々の目的は
貿易にあり
明・朝鮮に布教し

のちに占領
することだ

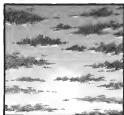
ルソン島の
如くにな



占領した境には
小西よ……

貴公を領主と
する手はず
だったか……

まさか
忘れては
いないか？





イスパニアと
組んでおる内に
……………

各国との貿易で
稼ぐだけ稼ぐの
だ……………

何もかもを譲える
程に 財を蓄えた
晩には……………

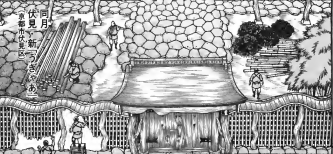
戦なぞせずとも
おのずと天下を
牛耳れよう……………

ザッ

ザッ

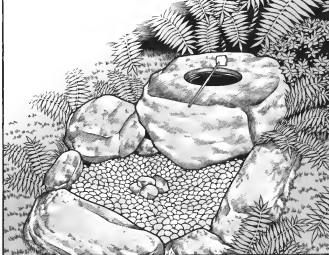
殿下・イスパニア
国王・明皇帝とて
我らが国に
口は出させぬ！

かつての
堺の如くに！

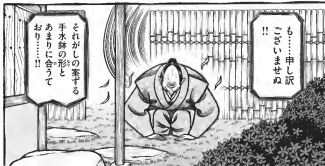














砂利の下に穴を掘り
水が滴り落ちる
仕組みにございます
!!

その名を
「漏れ水門」と
.....!!



すると
水の音が仕舞けも
その方が.....

御意に!!



すでに名を
付けてあるとは

風流に至って
幼いが
心はいっぱしの
数寄ムジナぞつ





それにしても
大した関よのう

まるで
昔の俺……



名を作蔵と
申したか……

石を運ぶ目も
師匠の作意も
中々のもの……



どうだ

正式に
私の弟子に
なつてはみぬか

お父上には
私が口を
利いておくが



ばれた以上
この手水鉢の石は
買うてもらうぞ

小堀家の銭では
なく、その方の
働き銭でな



ま………
真に恐悦!!!

ただし



早速一つ
教えて進める

よいか
作古殿

いずれ
身に沁みて
心得よう



これよりは
金子がものを
いう世ぞ



己が教奇を極めん
とするなら
金策が鍵になる
とな

1596年11月
伏見・徳川家康屋敷
（京都市伏見区）

どうやら
再び禁教令が
布かれそうだ

土佐に漂着した
イスパニアの
船員がきつく
尋問され……

切支丹の布教は
イスパニアの領地
拡大が手段……との
敷きが出たのだ

ときに
徳川様……

左様にござい
ますか……

この茶屋四郎次郎
も、例う相手を
吟味せねばならぬ
よう……

先日
気になる事を
耳に致しました

オランダなる
国の船が

ルソン島近く
まで 商いに
来ておるようで



第百十九席

Knockin' on Heaven of 数奇





何でも その
オランダと話を
結びしエグレス
なる国も……



南蛮の国の
一つか？

はい



イスパニアの
無敵船団を撃て
破る程の強国とか
……



なるほど
……………

南蛮の船勢は
その二国に傾き
つつあると……



御意に





蘭教令が
布かれても……

独自に南蛮貿易を
続け 硝石や財を
蓄えておきたい……

今後は その
二国も視野に
入れねばな



豊臣を転覆
せしむるには
財力こそ要



亡き先代と
等しく……

二代目の私めも
さきやかながら
奉公させて
頂きます



地震や朝鮮出兵にて
金策に困る諸將を
味方につけるため
にも

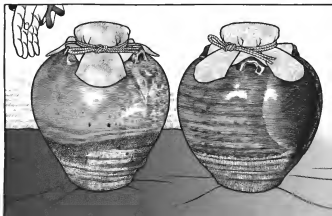




お世話になった
前田様には、御礼
のルソンをば

禁教令の発布と
共に、殉教する
覚悟にて……

この
高山右近









右近っ!!



されど私も
抵抗に疲れ
ました

きな奥からぬ
真摯な侍天運と
共に 主の許へ
族立つも天命かと



しやああ
ああ!!!



前田様の
御心に一切を
委ねまする



同月
伏見城、御殿

ズ
ダ
リ



殿下がお呼びに
なされたは……

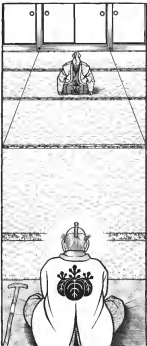
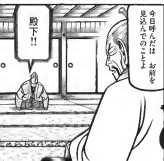
義弟右近殿
への沙汰の
通達か……

それとも俺への
朝鮮出兵命令か
……!?



嫌な予感か
する……

ズ
ダ
リ

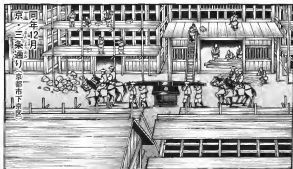




















今後も深く
係わっていき
たい

屋号ではなく
姓を教えてくれ



必ずや……



美濃は蒲井村の
生まれにて……

蒲井新兵衛と
申します!!



必ずや徳川様の
御名に恥じぬ大店
にしてみせます
……!!



名を馳せると
良いな

今の世のみ
ならず
次の世まで

第十一服終

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE Hyouge Mono 11

YOSHINIRO YAMADA ●●●●●

へうげもの
11 巻

1919

MOONING'S JUNE 2000
MOONING'S KC
KODANSHA



ORISE FURUTA TOYOTOMINO HIDEYOSHI SATAROU UEDA NENE IEYASU TOKUSAWA

2010年7月23日 第1刷発行（定価はカバーに表示してあります）

著者 山田芳裕 ©Yoshinro Yamada 2010

発行所 清水保雄

発行所 株式会社 講談社



〒112-8001 東京都文京区春日2-12-21

電話 編集部 03-3945-6165

販売部 03-5395-3600

後丁 シマダヒデアキ (Local Support Department)

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 誠利製本株式会社

本文印刷所 豊田印刷株式会社

ISBN 978-4-06-372919-1

N.D.C.726

220p

19 cm

Printed in Japan

本書の複製権等コピーは著作権法上での権利を除き、禁止されています。

後丁本 后丁本は裏面書名も印刷のため、小社書籍部宛にお送りください。

送料小社負担にてお送り致します（電話03-5395-3600）。

なお、この本についてのお問い合わせはモーニング編集部宛にお願ひいたします。

「へうげもの」第11巻は、

モーニング09年51号、10年1号、4・5合併号、7号、9号、11号、13号、15号、17号、19号、21・22合併号に掲載された作品を収録したものです。

編集部では、この作品に対する読者のご意見・ご感想をお待ちしております。

また、今後「モーニングKC」にあつめてほしい作品がありましたら編集部までお送りください。

なお、お読みいただきたいお手紙・お便り等は、ご記入いただきたい個人情報を含めて読者にお渡しすることがありますので、あらかじめご了解のうえ、お送りください。

〒112-8001 東京都文京区春日2-12-21 講談社「モーニング編集部」モーニングKC係

KODANSHA TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE
HYOUGE MONO 11

この漫画はフィクションにて候。実在の人物・団体等と無関係にて候。

大スクー武!!



古田左介お手柄

あの時キミは強かった!!

七百年の名門 細川家系代
の逸話を記す「備考輯録」(東京都文
京区 永青文庫所蔵)に、「へうげもの」の主
人公古田左助の華々しい武功が記
されていることがわかった。今年2010年2月、
モーニング誌上での特対談収録の席上、当主 謹照
氏が作者 山田芳裕に明かしたものの、稀代の教育者の
「武」に関しては、これまで主に「へうげもの」でしか
知られていない。戦場をともに駆け抜けた盟友の
子孫が「戦国武将 古田左助」の再評価に世紀の
友情アシストを決めた。

【原文】
(前略) 其内に九月十八日明智光秀、丹波国雲
林院式部大輔國任を大將とし、宇津大和守釈
迦牟尼仏親貴、中沢將監和田加兵衛三千程二
而桶籠りし鬼ヶ嶽の城を被攻由聞召し、御近
習計にて馳着給ふ。藤孝君より康之を被差添
候。光秀飲て追手の方へ可被桶との事なりしに、
古田左助重能不用之、山の手可然として間道よ
り押寄る。一騎打の処を木の根岩角二取付、新に
坂を攀上り、城に突入て凱を免し、古田左助先
に追て敵を討取る。忠興君も敵を突伏て首を
取り給ふ。是を見て惣軍一同二攻掛り、同廿八日城
徒を初武百余人討取候。城主雲林院式部 赤
井亮右衛門等ハ残党と共に逃散り、同廿八日城
を屠る。赤井は穂堂の城主也。(中略) 古田左助ハ
候由、雲林院ハ赤井が旗下也。(中略) 古田左助ハ
戦功有之候間、彼是を以信長公直參被仰付
後職部正と改 茶道の達人也(後略)

備考輯録」の記録によれば、天正七(1579)年九月十八日、織田信長より丹波(京都府)
攻めを命じられた明智光秀軍は、城兵約三千が立て籠る要害・鬼ヶ嶽城を急襲。古田左
部・細川忠興・松井康之らがこの一戦に従った。追手に備えよとの大將・光秀の命令に反
し、織部は山の手を攻めるが得意策と間道を抜く。激しい一騎打ちを繰り返しては、遂に二無二
木の根、岩角に取付き、急坂をよじ上り、城へ勇躍乗り込むや、かちどきの声も轟然と、
するまづ進んで敵兵を多数討ち果たした模様。織部に続き細川忠興も敵を突き伏せて首
級を挙げ、勢いづいた明智軍は総攻撃を展開。二百人余を討ち取った。この功績によって、
織部は直隸上司の細川藤孝(幽斎)から五百石を賜り、「後職部正と改、茶道の達人也」と
信長直参に抜擢された。同書の織部に関する記述は「(当主・信長氏)」「いやは、五百石
付記されている。」「織部は細川家の家臣だったんですよ」(当主・信長氏)。「いやは、五百石
は初耳ですねえ」(山田)。「文化系男子」の代表として歴史に名を刻む古田左助だが、今
回文芸道楽の猛者であることが明瞭に証明された。桃山時代の茶の湯は武を抜きには語
れない。【編集部】

山田芳裕 12巻
いざ、数奇場の頂へ!
11年1月発売予定也

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE

Hyenge Mono

11
KODANSHA

浪花恋しぐれ／藤はるみ&岡千秋 1993

(Downing of A) New Era / Heartbreak Hotel / Ewa Presley 1956

ミミ・フランニユー・ライ (MISS BRAND-NEW DAY) 藤木 / 藤三 1968

Rhapsody in Blue / George Gershwin 1924

Money Go Round / THE STYLE COUNCIL 1983

Knockin' on Heaven's Door / Bob Dylan 1973

Let It Be / THE BEATLES 1970

英語のチーズ / 中村八木 1969

Let It Be / THE BEATLES 1970

[セーニング会式サイト] <http://www.doughnuty.com>

1919

HYOGE MONO SINCE 2005
MORNING KC